

企画展示

文化財保護法施行七十五周年

よみがえる名所

押上 最教寺の世界

ーかえってきた仏像たちー



令和7年

10.4(土)

～12.7(日)

※会期中、一部展示替えがあります。

会場：3階展示室

時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時半まで）

休館日：月曜日・第4火曜日（土・日・祝日は開館。祝日に当たる時は翌平日休館）

入館料：個人100円・団体（20名以上）1人80円

*中学生以下と身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及び介助の方は無料



すみだ郷土文化資料館

東京都墨田区向島2-3-5

都営浅草線：本所吾妻橋駅から徒歩8分

TEL 03(5619)7034 FAX 03(3625)3431

関連企画など
詳細はホームページを
ご確認ください。



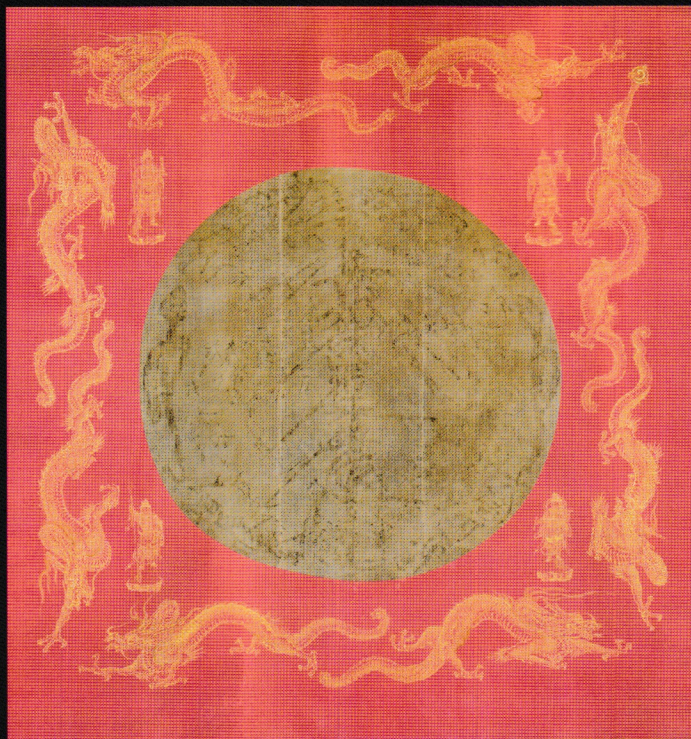
すみだ
郷土文化
資料館

SUMIDA
HERITAGE
MUSEUM



よみがえる名所 押上 最教寺の世界

—かえってきた仏像たち—

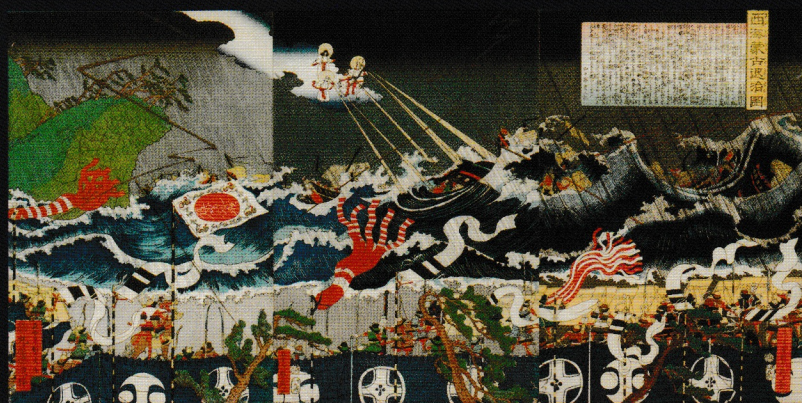


伝・日蓮「日の旗曼荼羅」(複製/原本・最教寺所蔵)

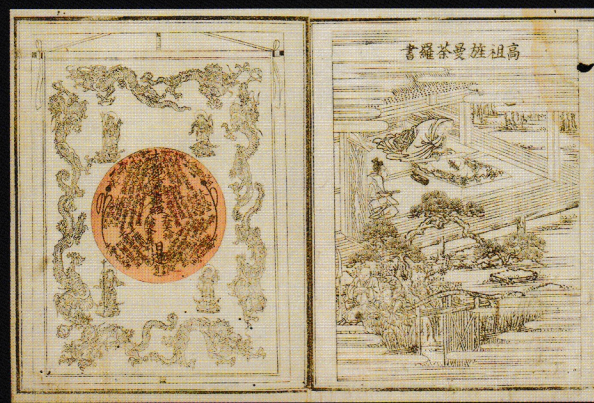
墨田区域南部の本所地域は、かつては隅田川河口に広がる砂州でした。江戸時代になると徐々に開発され、明暦の大火(1657)の後に本格的に開発が進められて本所・深川地域が形成されました。このように新開地であった本所地域には、町人や武士のほかにも寺社が移入し、また新たに創建され、やがてそれらは名所となって人々にぎわいました。

天松山最教寺は、この時代の本所に建立された日蓮宗寺院です。寺伝によれば、徳川秀忠の娘・千姫の病氣平癒の祈禱を行ったことから旧押上村に寺地を得たといわれます。『江戸名所図会』や『東都歳事記』によれば、最教寺には、日蓮が蒙古襲来の折に記したと伝わる「日の旗曼荼羅」が伝来しており、開帳などを通じて江戸の人々の崇敬を集めていたことがわかります。

しかし、安政江戸地震(1855)や関東大震災(1923)による被害によって区外へ転出し、昭和40年(1965)に現在地の八王子市へ移転しました。こうした経緯をふまえ、すみだ郷土文化資料館では、平成30年(2018)年から最教寺の寺宝調査を行ったところ、江戸時代以来の仏像や「日の旗曼荼羅」など、「お寺のたからもの」が現在も大切に守られてきていることがわかりました。本展示では、調査成果をもとに、最教寺の仏像や寺宝を中心として、浮世絵や文献資料などから、かつての名所 最教寺について紹介します。



『西海蒙古退治図』歌川(五雲亭)貞秀/文久2年(1862)
(立正大学古書資料館所蔵)



『蒙古退治旗曼荼羅記 全』深見要言/文化13年(1816)



関連講座

①令和7年10月18日(土) 13:30~15:30 料金600円(入館料込)

「最教寺と旗曼荼羅信仰」 望月 真澄氏(身延山大学 特任教授)

②令和7年11月22日(土) 14:00~15:30 料金400円(入館料込)

「かえってきた仏像たち—天松山最教寺調査の成果から—」

萩原 哉氏(玉川大学 教育博物館 准教授)

会場:すみだ郷土文化資料館 研修室/先着順。9/21よりお電話にてお申し込みください。

〔表紙 左:毘沙門天立像(17世紀) 右:不動明王坐像(17世紀)〕

- 都営浅草線「本所吾妻橋」駅下車、徒歩8分
- 東武線「とうきょうスカイツリー」駅下車、徒歩7分
- 都営バス「言問橋」停留所下車、徒歩2分
- 草39:金町駅~浅草寿町
- 業10:新橋~とうきょうスカイツリー駅
- 上26:亀戸駅~上野公園
- 都営バス「本所吾妻橋」停留所下車、徒歩8分
- 都08:錦糸町駅~日暮里駅
- 門33:豊海水産埠頭~亀戸駅
- 上23:平井駅~上野松坂屋

すみだ郷土文化資料館

〒131-0033 東京都墨田区向島 2-3-5
TEL 03(5619)7034 / FAX 03(3625)3431